

私の「正覚（しょうがく）」について・一度っきりの人生をいかすために私は「正覚」という言葉を使ってこのホームページを書いています。

これはお釈迦さんが話されたことをまとめたお経、原始仏典といわれる阿含経（あごんぎょう）に書かれている「正覚」と同じ意味で使っています。

「明けの明星、解脱、涅槃（ねはん=ニルバーナ）」などと、お釈迦さんがご自身の成道について言い表された体験を、私もサラリーマンとして「毎日する趣味の坐禅」で体験して「正覚」という言葉を使っているのです。

約1300年前の昔、中国で荷沢神会（かたくじんね）という人が段階を経ずに一気に悟れる「頓悟（とんご）」（私は邪説だと思います）ということを行い出し、混乱を招いたようです。

お釈迦さんの坐禅はご自身が出家されてから、瞑想をされた経験もあって、心を清め、強い怒りの心を鎮めて、などしてから坐禅するというような準備がいたったようでした。

しかし中国で悟りに成功された人が「準備はいらぬ、直ちに坐禅したらいい。坐禅で全て解決できる。釈尊が成道された時の心をつかめばいい」と見抜かれ、指導を単純化された「中国禅の功績」を台無しにしてしまったようです。

頓悟禅なるものを行っている人たちのいう「悟り」は間違いではないでしょうか。そのような言葉を使うから「悟後の修」という不思議な言葉があるのではないのでしょうか。「悟りを認定して頂いた人」を大量生産されているようですが、その「悟後の修」を完成されて、「生きていくうえで何の不安もなくなった」、お釈迦さんのような本当の悟りをつかまれた人がどれほどいるのでしょうか。

混乱の原因は荷沢神会（かたくじんね）という人とそのグループです。このグループは2代目を限りに消滅しましたが、「頓悟」の言葉の威力で悪影響が今も続いているようです。

お釈迦さんが、その人生で示されたように、坐禅を始めたなら「たとえ悟りを体験しても、一生続ける」でいいのではないかと考えています。

曹洞宗が言うように「黙照禅（もくしょうぜん）」「ただ坐ればよい」（只管打坐）が正しいともいえます。ただし、個人的に体験の相談を受けたり、指導が必要でしようが。